

2022 年度 学校自己評価報告書(法政大学第二中・高等学校)

<b>教育理念・目標</b>	<p>教育理念:本校における教育は、人格の完成をめざして国民的共通教養の基礎を築き、平和で民主的な国家および社会の形成者を育成することを目的とする。</p> <p>教育目標①:人類および民族のあらゆる分野における歴史的・文化的遺産を体系的に学び取り、自然と社会・人間に対する認識を深める。</p> <p>教育目標②:獲得した認識を総合し、自然との共生・諸民族の共同など、人類社会のもつ諸課題と向き合う視野を培う。</p> <p>教育目標③:学ぶことの意味と喜びを知り、常に学問的好奇心を発揮し、生涯にわたって成長を遂げることのできる土台を獲得する。</p> <p>教育目標④:自己を客観視し、社会の中でどのように生きるかを考える能力をつける。</p> <p>教育目標⑤:自己の諸課題の解決・現状の変革を担おうとする自主的精神と互いを尊重し共同での取り組みができる自治的能力を獲得する。</p> <p>教育目標⑥:高い品性と社会性を身につけ、不正・腐敗を許さず、社会正義を確立する自立の力を獲得する。</p>
----------------	---

<b>重点目標</b>	<p>1、教育目標を達成するために生徒一人一人に高い学力をつけさせるための具体的実践の研究をする。</p> <p>2、男女共学化 6 年目に際し、新たに表出する課題に対して対応する。</p> <p>3、新図書館やICTを活用した教育の研究と実践を深める。</p> <p>4、中高 6 ヶ年を視野に入れた生徒の自主活動を伸ばすための工夫をする。</p> <p>5、法政大学・育友会(PTA)・同窓会・地域との連携を強化する。</p>
-------------	---

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2023 年 6 月 30 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	<b>建学の精神</b> (建学の精神や理念の理解と意識化)	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けながらも、中学 1 年での「校外授業」、高校 1 年での「新入生合宿」を実施することができ、建学の精神や理念について、重点的に取り組むことができた。「学びのつながり」等を使用し建学の理念、大学史、二中高史等の学習を行った。				相応の内容が記載されており、異論はない。
2	<b>組織運営</b>	ひきつづき組織的・集団的な学校運営を重視した。諸会議は少しずつ対面の形式にもどしていった。会議資料をクラウド上で共有するなど、効率的・効果的な会議運営にむけ、コロナ禍を契機に始めた経験が活かされている。 学校の将来構想、生徒へのタブレット端末導入などをめぐって全教員の参加する討議を行った。このような規模での討議は新校舎建築・共学化にむけた学校構想の討議以来のことであり、特に共学化以降に入職した若い層に本校の組織運営のあり方を継承する上で重要な意味をもった。				相応の内容が記載されており、異論はない。
3	<b>教育活動</b> (教科、生活、進路、行事、自主活動等)	<p>教科教育においては、学校改革の一環として、「教科教育における 6 力年体系化」の中長期計画に基づき、カリキュラム改革をおこなった。中学新教育課程が実施 2 年目、高校新教育課程が実施初年度となり、新学習指導要領に基づいて新たな科目の実践も始まった。新型コロナウイルス感染拡大により学級閉鎖や学年閉鎖を行う時期もあったが、年間を通して通常時程での対面授業を実施した。学習方法についても、感染症対策を徹底しながら活動型の学習をカリキュラムに位置づけ、他者と協働しながら思考力・表現力を培う実践を積極的に進めた。学力向上に資するカリキュラムの再構築と実践を展開し、学力の到達状況に応じて特別指導や課題設定などの学習支援を継続した。こうした取り組みを通して、法政大学推薦に値する学力へ到達させることに努めた結果、各教科目の学力到達度、および法政大学への推薦率について前年度の水準を維持することができた。来年度も、学校コンセプトである「調べ、討論し、発表する」教科活動の一層の充実に向け、ICT 機器の活用や学習情報センターとしての図書館を活用した教科活動を推進するとともに、生徒用タブレット導入や学校構想中長期計画を念頭に置いた教科教育のあり方について検討する。</p> <p>生活指導においては、HR、行事、クラブ活動など感染対策を施しながら対面での取り組みを展開した。行事については、各学年ともに 19 年度と近い形態で感染対策を行いながら実施することができた。行事中の学級閉鎖や行事後の学年閉鎖などがあった。中1～高 2 までの各学年の宿泊行事はそれぞれの学年の取り組みとして重視してきた。今年度も学年集団を成長させる手立てとして無事実施することができた。中学体育祭は青団、オレンジ団に分かれ各競技を実施した。また、今年度は保護者が観覧できる形式で行い、保護者の方にも生徒の様子を見て頂くことができた。高校体育祭は 3 学年合同で実施し、19 年度に近い形態で実施できた。各クラス、各学年が結集する行事として取り組むことができた。二中文化祭・二高祭は久しぶりに中・高ともに教室で企画を実施した。充実した行事を行うことができ生徒も満足していた。</p> <p>クラブ活動においては、感染対策を行いつつ展開した。試合や合宿が少しずつ戻り生徒たちも学習との両立を行いながら熱心に取り組んでいた。</p>				相応の内容が記載されており、異論はない。
4	<b>安全・保健管理</b> (保健、安全、防災、施設等)	年度当初(4 月)に定期健康診断・体力測定を感染症対策を講じながら実施した。健康安全講習会については 7 月に生徒・教員ともに実施した。熱中症対策や AED の使用方法を含む心肺蘇生法や救急法についての学習を行った。また、こころの問題に対処する体制を整えるために年間をとおしてカウンセリングルームを開室した。生徒、保護者と必要な連携が取れる体制をつくり、年				相応の内容が記載されており、異論はない。

		間を通して維持できた。避難訓練については、「火災時の避難経路の確認」「大規模地震発生時の対応」に関わって合計3回実施した。避難時の注意事項の確認・徹底も行き、整然と実施することができた。次年度も継続して大規模地震発生時の対応について検討を深めたい。	
5	連携 (保護者、卒業生、地域等)	コロナ禍の影響を大きく受けたが、育友会との連携を密に行い育友会理事会の円滑な運営に寄与した。「育友会集中ミーティング」においては、学校と保護者の充実した意見交流が行うことができた。日常的な保護者連携としては、年3回(7月・12月・3月)の保護者会やクラブ保護者会を軸に、クラス担任、養護教諭、カウンセラーを中心に、各学年がチームとなって生徒個々の実態把握と対応を行った。同窓会との連携については、19年度から始まった同窓会内部の問題がおさまらず、まったく連携をとることはできなかった。23年度以降は新たな連携方法を追求する必要がある。地域等との連携では、「地域に愛される法政二中高」をめざし、地域の方々からお寄せいただく各種ご意見への対応につとめた。武蔵小杉駅近辺の清掃への参加や二中文化祭・二高祭の商店街の出店等、地域との良好な関係を構築することができた。	保護者並びに育友会との連携について、コロナ禍の影響を受けながらも育友会理事会や保護者会の開催、更には体育祭、文化祭時の来校の実現等により保護者の学校への理解を深めることができた。一方で、各クラスや各部活動ごとの保護者との連携には爬行性が見られた。来年度、さらなる連携活動の強化が期待される。 地域との連携については、コロナ禍での可能な範囲での実施に止まっている。来年度以降は、状況を見極めた上で、二中文化祭、二高祭への地元商店街の参加を含め、連携の具現化が期待される。
6	大学との連携	法政大学とは、この間、大学に設置されている付属校連携室を基点に連携事業を進めている。高校入学後には、「法政大学憲章を学ぶための付属校生むけ教材開発プロジェクト」による冊子『学びのつながり』を高校1年の新入生合宿やホームルームで配布・活用している。内容は、法政大学が掲げる「自由を生き抜く実践知」にもとづき、①法政大学の理念、②法政大学の歴史(大学憲章への道)、③「地球社会の課題」とは何か、④中高生の「実践知」から構成されている。高校1年生では、3学期に「キャリアについて考える」ことをテーマに、法政大学の大学生や卒業生(社会人)による進路講演会を実施し、高校での生活や将来の職業について考える機会を持った。また、文理選択適性検査を実施し、将来の進路選択の動機付けを行った。高校2年生では、「ウェルカムフェスタ」を実施し、法政大学教員による講演(大学と高校の学びをつなぐ)と座談会(大学での学びの魅力)を通じて、高校・大学における学びの魅力を共有した。また、市ヶ谷・多摩・小金井の各キャンパスに通う現役の大学生(卒業生)を招き、キャンパスや学部、大学生活についての講演会を行った。高校3年生では、各学部の大学教員による学部別進路講演会を実施した。志望する学部の説明を受け、進路を考える貴重な機会となった。また、推薦学部決定後の「3年3学期プログラム」の取り組みでは、生徒の調査研究活動をふまえたプレゼンテーション大会を実施し、大学教員から講評をいただいたほか、「まとめ」としての論文作成を行った。さらに、大学入学前オリエンテーションや入学前課題などでも大学と連携して取り組んだ。 高大連携企画として、ウェルカムフェスタの他、高校生を対象にワンデー・サイエンス・カレッジ(小金井キャンパス)、多摩キャンパス体験学習プログラム、イングリッシュキャンプを実施し、希望生徒が複数参加した。また、総長杯英語プレゼンテーション大会には、複数の生徒が参加して受賞するなどの活躍がみられた。 中学と大学との連携は今後の課題である。次年度も、生徒の進路選択を保障する取り組みを具体的に推進し、連携を深めたい。	相応の内容が記載されており、異論はない。

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2023年6月30日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	入試広報	今年度も「法政大学の付属校としての学び」の内実と魅力を、受験生・保護者にきちんと伝えることを重視して広報活動を展開した。昨年度に比べて再開される学外広報イベントが多く、可能な限り参加した。また、時期に応じたテーマを設定し、オンラインを活用した説明会・相談会も展開した。学校説明会、学校公開については、新型コロナウイルスへの感染対策を講じて、コロナ禍前とほぼ同じ規模で実施することができた。またオンラインによる説明会、個別相談会も実施し、受験生・保護者のニーズに応え、実際、参加者によるアンケートでも高い満足度が示された。入試については、中高ともに志願者数が増加した。実施にあたっては新型コロナウイルス感染防止を徹底し、全教職員の協力のもと、無事に終了することができた。結果として適正な選抜方法によって、適正な人数の入学者を確保することができた。今後も本校の教育の中身をより具体的にアピールしていくことが大切となる。その方法については継続的に検討を重ね、積極的に入試広報活動を展開する。	相応の内容が記載されており、異論はない。			
2	2022年度学校構想 (国際交流の推進)	コロナ禍で制約をうけていた国際交流活動を少しずつ日常にもどすことができた。中断していた海外からの留学生の受け入れを再開し、2022年末時点で2名を受け入れている。本校から海外への長期留学は17名となり、ほぼコロナ禍以前の数に回復した。カナダ、ニュージーランドへの研修プログラムは2023年度から再開することとなり募集を開始した。姉妹校であるオレワカレッジ(ニュージーランド)とあらたにターム留学を開始すべく協定締結の準備を進めた。生徒の国際交流委員会も活発さをとりもどしている。	相応の内容が記載されており、異論はない。			